

申 込 書

平成 23 年 月 日

公益財団法人 旭硝子財団 御中

----- [申請者欄] -----

貴財団の研究助成（平成23年度募集，平成24年度採択）を受けたいので申し込みます。
採択された場合には、本申請書と貴財団の「研究助成の手引き*」に従って研究を行います。

（フリガナ）

■申請者氏名（自署）

印

■所属機関・職位

■所属機関所在地（〒 - ）

TEL (内線)
FAX
E-Mail

----- [所属機関欄] -----

上記の申請者からの応募が採択された場合には、旭硝子財団からの寄附金を当機関の研究費使用規程と貴財団の「研究助成の手引き*」に従って管理することを前提の上で、申請を承認します。

■承認者氏名・職名および公印

（学長、研究科長、学部長、附置研究所長、施設長、センター長）

公印

「研究助成の手引き」は、当財団ホームページで公開されています。

個人情報の取扱いに関する同意書

私は、下記の「旭硝子財団の個人情報保護に関するポリシー」を承諾します。

平成 23 年 月 日

所属：

氏名：

印

(自署)

【旭硝子財団における個人情報保護に関するポリシー】

- 当財団の研究助成プログラムへの応募にかかわる一切の個人情報は、選考に関する手続き（審査と当財団からの連絡）のためだけに使用いたします。
- 当財団はご申請の研究助成が採択された場合に、①受領者名（所属機関、職位）、②顔写真、③研究課題、④テーマの概要、⑤研究期間、⑥助成額、⑦助成研究成果報告を公開いたします。公開媒体は当財団の刊行物、ホームページであり、他の機関による二次的な公開も有り得ます。また、当財団が開催する行事にご参加された場合には、個人の肖像写真を当財団の刊行物、ホームページに掲載することがあります。

以上

なお、本件に関する当財団の担当者は次の通りです。

旭硝子財団 研究助成部長 増井 暁夫 (Tel: 03-5275-0620)

1. 申請者の略歴、研究分野、業績 各項目の行数を変えることはできますが、このページ内に収まるように配慮してください

1) 学歴・職歴(大学入学から記載してください)

2) 申請者が過去に旭硝子財団から助成を受けた研究テーマの概要と成果 (進捗実績に関する自己評価)

3) 上記以外の主な研究実績

4) 受賞関係 (年月、表彰機関、受賞の名称、題名など)

このページ内に収まるように取捨選択または追加してください

2. 共同研究者(申請者と共同して研究PJ全体に参加する研究者)

①氏名(フリガナ)・生年月日: xx xx (xxx xxx) 19xx年 xx月 xx日 (xx才)
所属機関 xx 大学大学院 xx 研究科 xx 専攻 職位: xx
所属機関所在地: (〒xxx-xxxx) xxx 県 xxx 市 xxx 町 xxx
[TEL] xx-xxxx-xxxx [FAX] xx-xxxx-xxxx [本人 E-Mail] xxxxx@xxx.ac.jp
学歴・職歴:

これまでに行った主な研究:

②氏名(フリガナ)・生年月日: xx xx (xxx xxx) 19xx年 xx月 xx日 (xx才)
所属機関 xx 大学大学院 xx 研究科 xx 専攻 職位: xx
所属機関所在地: (〒xxx-xxxx) xxx 県 xxx 市 xxx 町 xxx
[TEL] xx-xxxx-xxxx [FAX] xx-xxxx-xxxx [本人 E-Mail] xxxxx@xxx.ac.jp
学歴・職歴:

これまでに行った主な研究:

3. 研究協力者(補助的あるいは部分的に研究に参加する研究者)

- ① [氏名・年齢] (才)
[所属機関・職名]
- ② [氏名・年齢] (才)
[所属機関・職名]
- ③ [氏名・年齢] (才)
[所属機関・職名]

4. 今回申請する研究の内容 各項目の行数を変えることはできますが、このページ内に収まるように配慮してください

1) **研究の背景と目的・目標** 過去に当財団から助成を受けた研究テーマの目的・目標や成果と対比し、今後どのように発展させるのかがわかるように書くこと

2) **設定された課題に対するブレークスルー(アプローチ)の方法** どのようにして課題を達成/解決/克服するのか

3) **類似の研究に対する先行性、研究の独創性・独自性** 類似の研究とは何が違うのか、独自の発想は何か

(各項目の行数を変えることはできますが、このページ内に収まるように配慮してください)

4) 研究の学術的または社会的な意義と期待効果

5) 研究計画 助成金の使途と関連づけながら時系列的に説明して下さい。矢印やテキストボックスなどを使っても構いません

5. 助成金使途内訳 (自然科学系の場合の記入例をアンダーラインで示しました)

[金額単位：千円]

費 目	1 年 目	2 年 目	3 年 目	4 年 目	内 容 ・ 使 途 説 明
<設備・備品費>					
装置 A	<u>4,500</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	〇〇成膜装置
装置 B	<u>0</u>	<u>3,600</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	〇〇反応器真空度向上(改造)
装置 C	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>2,500</u>	<u>2,200</u>	〇〇計測装置改造
<消耗品費>					
C器具部品	<u>276</u>	<u>300</u>	<u>300</u>	<u>308</u>	検査キット, 単価〇〇円, 〇〇個
D薬品	<u>300</u>	<u>380</u>	<u>128</u>	<u>400</u>	合成用薬品, 単価〇〇円, 〇〇個
<旅費>					
東京～京都	<u>100</u>	<u>100</u>	<u>100</u>	<u>100</u>	共同研究者との打合せ 毎年4回
東京～鹿児島	<u>50</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	学会発表
東京～バンクーバー	<u>0</u>	<u>250</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	学会発表、〇〇教授打ち合わせ
東京～フランクフルト	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>300</u>	<u>300</u>	学会発表、〇〇教授打ち合わせ
<謝金・外注作業費>					
学生アルバイト	<u>150</u>	<u>50</u>	<u>100</u>	<u>200</u>	〇〇でのフィールド計測調査〇〇時間
同上	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>400</u>	<u>200</u>	資料整理作成手伝い
<印刷費>					
シンポジウム資料印刷	<u>0</u>	<u>80</u>	<u>80</u>	<u>100</u>	シンポジウム資料作成
<通信費>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	
<会議費>					
関係者シンポジウム開催	<u>0</u>	<u>220</u>	<u>220</u>	<u>800</u>	協力研究者全員会合の会場費、消耗品代
<所属機関に支払う間接経費※>	<u>224</u>	<u>196</u>	<u>172</u>	<u>192</u>	免除申請が認められる可能性あり 内数として4%
小 計	<u>5,600</u>	<u>4,900</u>	<u>4,300</u>	<u>4,800</u>	
合 計		<u>19,600</u>			

※ 当財団は、原則として機関に支払う間接経費（オーバーヘッド）をお断りしています。採択後に、出来る限り学内で免除申請を行ってください。もしこの申請書に間接経費を計上した場合には、免除の可能性について必ず記入してください。

6. 他機関からの研究助成 科研費等の国の競争的研究費、他の財団等からの助成金はすべて該当します

1) 申請者が最近2年間に受領した助成金

助成開始年度がそれ以前であっても、あるいは本申請と異なるテーマであっても、当該期間に受領したものをすべて書いてください

受領年度	助成金の名称	受領者名 (チームの場合は代表者)	研究課題	金額※ (千円)
～				
～				
～				
～				
～				

2) 申請者が現在申請中、あるいは近く申請を予定する助成金

当財団への申請と内容が重複するもののみ書いてください。

同じ研究内容で他の機関に助成申請されることは差支えありませんが、他の機関から先に採択された場合には、当財団への申請を取り下げてください。故意に記載せず、重複した助成が判明した場合には、採択が取り消されることがあります。本申請と他の申請との関係で記述すべきことがあれば、7.の空欄にご記入ください。

年度	助成金の名称	受領者名 (チームの場合は代表者)	研究課題	金額※ (千円)

※チーム研究の場合は申請者に直接かかわる金額を記入してください

7. 選考において配慮を希望する事項 (自由記載)

- 8. 関連論文リスト** 本申請に関連する主に2006年以降の申請者自身の論文リストをこのページに収まる範囲で作成してください。
代表的論文1件に○印を付けるとともに、その○印を付けた代表的論文1件の別刷コピー等を添付してください。